

【白内障治療 最前線】

「老眼鏡なしで遠くも近くも見えたら…」と悩んでいるあなたに

「中山眼科」の  
中山雅雄院長に  
聞きました

# 老眼の新しい 治療法として注目の『多焦点眼内レンズ』

加齢により目の中のレンズ(水晶体)が濁り、視力が低下する「白内障」。その新しい治療法として「多焦点眼内レンズ」が注目を集めています。白内障の手術とともに、網膜硝子体疾患の手術を多数手掛けている「中山眼科」の中山雅雄院長(写真)に、「多焦点眼内レンズ」とはどんな治療法なのか、お話を聞きました。

**人工の眼内レンズには  
2つの種類があります**

白内障手術では、まず白濁した水晶体を取り除き、人工の眼内レンズを挿入しますが、そのレンズには2つの種類があります。従来は、遠近どちらか



中山雅雄 先生

福井医科大学(現・福井大学医学部)卒業後、岡山大学眼科学教室入局、岡山大学病院医員、福山市民病院科長を経て、2014年4月「中山眼科」開設。日本眼科学会専門医、眼科PDT(光線力学療法)認定医

**手術には**

**より高い精度が必要**

非常に高性能かつ繊細な多焦点眼内レンズの効果を最大限に発揮するために、ピント合わせが重要です。わずかな近視

**裸眼で遠くも近くも見える  
多焦点眼内レンズ**

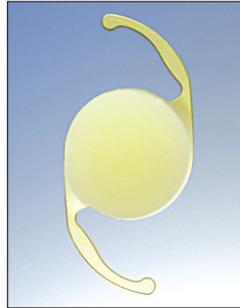
一般的に使用される「単焦点眼内レンズ」では、遠くと近くのピントを合わせる調節力がないため、遠くにピントを合わせた場合、手元を見るための老眼鏡が必要となります。その欠点を解消する目的で開発されたのが「多焦点眼内レ

**日帰り手術が可能**

手術は従来の白内障手術と同様に点眼麻酔で行いますが、痛みはほとんどありません。日帰りの手術が可能です。入院を希望される方はご相談ください。

**先進医療の認定施設は  
経済的負担が軽減**

多焦点眼内レンズを用いた白内障手術は、厚生労働省から「先進医療」として認証されています。レンズが非常に精密なデザインで高価なため、手術費用は保険適用外となりますが、当院のような先進医療の認定施設で手術を受けた場合、生命保険などの「先進医療特約」の対象となります。費用が全額または一部給付されますので、加入している保険会社に問い合わせてください。実際に当院でも先進医療特約により、手術費用の自己負担なしで受けることができます。



多焦点眼内レンズ(回折型)は、レンズに階段状の段差をつけ、入ってくる映像を遠く、近方に振り分けて、見る事が可能



単焦点眼内レンズの見え方のイメージ。手元の文字はぼやけるため、老眼鏡が必要だ



多焦点眼内レンズの見え方のイメージ。老眼鏡なしで手元の文字がはっきり見える



**中山眼科**  
☎084(954)9000  
福山市川口町4-21-31  
<http://www.nakayama-ganka.jp>